



袋高通信

# あいのだより

'19 12月号

12月20日発行

通巻第174号

静岡県立袋井高等学校

## 保護者の活動の紹介

### PTA広報・研修委員会の活動

六月一日(土)の緑風祭で、PTA広報・研修委員会の保護者が中心となり、バザーを開催しました。活動された保護者の声をご紹介します。

『今年も六月一日の緑風祭において、PTAバザーと年間行事の活動記録写真展示を盛況のうちに開催することができました。』

皆様には、バザーの品物を提供していただき、ありがとうございました。また、保護者の皆様、先生方、地域の皆様には売り上げにも御協力いただき、ありがとうございます。学校の計らいにより、七月十日の贈呈式において、収益金五六、六八六円を生徒会にお渡しすることができました。生徒会活動に有効に活用していただきたいと思います。

写真展示も同時に開催させていただきました。この写真は広報研修委員の方々が学校の色々な行事において生徒達が笑顔で楽しんでいる様子、真剣に取り組んでいる様子を撮影したものです。

来年度も緑風祭において、PTAバザーと写真展示を開催の予定です。少しでも多く生徒会の応援ができれば、ますますよう御協力をお願い致します。また、バザーへの御協力及び写

真展も御覧いただきありがとうございます。お待ちしております。

事前の準備から当日まで役員の皆様、先生方と一緒に活動できたことがとても良い経験となりました。ありがとうございました。』



### PTA生徒・保健委員会の活動

九月一三日(金)、一〇月一八日(金)、一二月一三日(金)には、PTA生徒・保健委員会に御協力いただき、生徒・教員と共に交通安全街頭指導を実施しました。

活動された保護者からの感想をご紹介します。

『今年九月に『自転車マナー向上キャンペーン』として、先生と交通安全委員会の生徒さんと一緒に八幡

神社前の橋で、街頭指導を行いました。

橋の北側と南側で行いました。橋はとても狭く、車一台が通れる程度の幅しかないのですが、通勤の車や大型の車両が頻繁に通る、自転車とすれ違う時は、とても怖く危険に感じました。そんな道ですが、毎日通っている子供と車は、この危険に慣れてしまっているように感じました。

袋井高校の生徒さんは、一時停止の標識を守り、安全に走行していましたが、この街頭指導をきっかけに、改めて各々が安全運転を心掛け、気を付けて通学してもらえたらと思います。

生徒・保健委員として保護者の活動に参加し、「おはようございます。」と気持ちよく挨拶を返してくれる子供たちの様子を見ることができて、とても嬉しく良い経験ができました。』

(文責 総務課 河合)

## 可能性

高校に入学して九カ月が経とうとしています。目標に向かって順調に高校生活を送れている生徒もいれば、情性で何となく過ごしている生徒、「負のスパイラル」に陥って課題等に追われている生徒もいます。上手くいっていない生徒は自

自己肯定感が低くなり、高校入学時に立てた目標も下方修正する傾向があります。そのような話を聞くと、「まだあと二年もあるのに」と残念な気持ちになります。

少し話は変わりますが、お子さまがつかまり立ちから歩き出すようにした時のことを覚えていてほしいでしょうか。おそらく何度も失敗したことでしょつ。尻もちをついては泣き、机の角に頭をぶつけてはまた泣き…。

しかし一歳の彼らは、何度失敗をしても起き上がり、「いつかは歩けるようになる」と信じて挑戦していました。自転車の補助輪を外した時もそうです。膝をすりぬきながらも「いつかは乗れる」と信じて自転車をこぎ続けました。当時の彼らは「いつせ失敗するからやりたくない」「俺には無理」とは思っていないはずです。痛くても傷ついても自分の可能性を信じ、挑戦し続けていました。誰もが幼き頃に持っていたチャレンジ精神。高校生となった今、埃をかぶってしまった生徒が多いのかも知れません。

大人の視点で振り返ってみますと、歩くの何度も失敗している子どもを見て、「君には無理だからやめなさい」とは言いません。失敗しても励まし続け、「君ならできる」と応援し続けました。今、私たち大人は、生徒の可能性を純粋に応援で

きているでしょうか。

高校生は可能性に溢れています。どんな自分にもなれます。歩みを始めた一歳のあの頃のように、生徒が自身の可能性を信じて挑戦する。教員も保護者も、生徒の可能性を信じて応援する。二〇二〇年、生徒が大きく飛躍する年になりますように、学年部一同、精一杯指導してまいります。

(一学年主任 鈴木彰洋)

### 受験生になるための準備

「二学期が終了します」…この文の前に言葉を補うとしたら、何が一番合うだろうかと思いましたが、「つよいむ」「やっつ」「つよつ」「瞬間」「はやくも」「とにかく」…飾る言葉が変わると、文の意味も変わります。やはり、二学期の生徒諸君がどのようにこの二学期を過ごしてきたのかによって選ぶべきなのでしょう。

二学期は多くの行事がありました。そして、日々の授業では次第に学習内容のレベルも上がってきました。行事に、学習に、真摯に取り組む生徒の皆さんの姿を見ると、我々も負けてはいられないと思います。生徒会・委員会・部活動では二年生がリーダーとなりました。一年生にアドバイスをし、互いに相談しながら

活動を運営する姿もぎこちなさが抜け、着実に成長を遂げています。進路については、夏休みに参加した夢ナビやオープンキャンパスでの経験をもとに、興味のある大学を調べて比較をしました。十一月の模擬試験では科目が増え、受験に近づいていることを感じた人も多いでしょう。

来月は三学期。一年生の三学期は三年生のゼロ学期、とよく言われます。二年生だからまだ大丈夫、という気持ちではなく、受験生となる準備を確実にする重要な時間としてとらえなければなりません。袋井高校では毎年卒業生にアンケートを行っています。受験勉強はいつ始めればよいか」という質問には多くの卒業生が「二年生の三学期」と答えます。早くスタートを切ることで余裕をもって学習を進めることができるのです。

もちろん、部活動などで時間の制約もありますが、時間を少し増やすこと、学習内容を精選することが、早期のスタートにつながります。

現在の学習時間の状況では、今後の受験期に全国で戦っていただけるかどうかと憂慮せざるを得ません。私も生徒の皆さんの意識が向上するように、事あるごとに呼びかけをいたしますが、御家庭におかれましてはぜひお子様を励ましていただけて

よう、よろしくお願いいたします。

(二学年主任 大石真理)

### 「母校」

先日出張で大阪に行きました。その時乗った阪神電車に大勢の保育園児がにぎやかに入ってきました。高校生の引率に比べたら先生たちも大変だな、と見て見ていると、窓の外を指さした一人の若い先生が「みえるやろ、せんせが行つてた学校や」と

「せんせな、あつこでいつぱいいるんなこと習せん」  
すると年配の先生が  
「へー〇〇せんせ△高なんや」  
「どうなんですかーでね…」

延々と高校時代の語りが続きました。きっとその先生は素晴らしい高校時代を過ごし、母校のことが大好きなのでしょう。印象的な光景でした。

人間にとつて、所属している集団が非常に重要な意味をもつのは言うまでもありません。集団に誇りを持ち、その集団の一員であることを自覚しながら生活する。

私たち教員は生徒が誇りをもてるような学校づくりを日々目指しています。しかし、これは非常に難しい課題でもあります。

多くの生徒にとっては鍛えるため

の重要な活動も、ある生徒にとって  
は過度にプレッシャーを与えるもの  
になってしまいます。

多くの生徒にとって居心地の良い  
空間も、ある生徒にとっては我慢で  
きないつらいものとなります。

すべての卒業生に冒頭で紹介した  
ような気持ちをもってもらいたい  
ではありますが、そううまくいくと  
は限りません。

わたしたち三年部の職員にとって  
今でできることの最大の任務はやはり  
進路実現です。毎日多くの生徒が早  
朝から遅くまで受験勉強に励み、小  
論文の指導を受け、面接練習をおこ  
なっています。

ひとりひとりの目標に寄り添い、  
ともに悩み考えながら、残り少ない  
日々を全力で過ごしていきたいと考  
えています。

(三学部主任 加藤久仁寿)

**教務課**

**科目選択について**

来年度の「文理選択」(一年生)、  
「コース選択」(二年生)について、  
クラス編成が決まりました。

一年生は、文型五クラス二〇一人、  
理型三クラス一〇八人で来年度クラ  
ス編成を行います。文型は、四一人  
クラスが一つと四〇人クラスが四つ  
の編成、理型は、三六人クラスが三  
つの編成となる予定(特進クラスの

関係で人数は流動的)です。クラス  
間で人数の違いがありますが、どの  
クラスに対しても同一指導が行える  
体制を整えていきます。

二年生は、文Iコース(私立文系  
希望)は一〇三人、文IIコース(国  
公立大学文系希望)は八九人の構成  
となりました。現二年生と同様に、  
文Iコースの選択者が二クラス、文  
II、文IIIの両方のコースの選択者が  
いる混合クラスが二クラスで編成を  
行います。理型については、数学III  
選択者が七四人、数学演習選択者が  
二十八人でした。理型は二年次と同じ  
く三クラスで、数学選択は混合で編  
成を行います。

特進クラスについては、二年、三  
年ともに文型、理型に二クラスずつ  
設置します。

**三年三学期**  
三年生は三学期に登校する日が二  
〇日しかありません。センター試験  
終了後の一月二〇日から午前授業  
になります。二十八日はマラソン大会  
のため三年生は家庭学習日になり  
ます。受験で学校を休む生徒が増え  
る二月三日(月)からは、三年生は  
家庭学習日になります。二月二日  
(金)と二十八日(金)は登校日で、  
三月二日(月)が卒業式となります。  
残り少ない高校生活を大切にさせて  
ください。試験で学校を休む場合は、  
必ず事前に担任へ生徒本人より申し

出をさせるようにお願いします。

(教務課長 長谷川明彦)

**進路課**

十一月一日朝、英語民間検定試験  
の導入見送りが報じられました。ま  
さに青天の霹靂というべき事態でし  
た。費用の面でも、検定実施会場の  
面でも数々の問題を抱えながら、導  
入初年度に向けて準備を進めてきま  
したが、今一度仕切り直します。

大学入試には二年前ルールと呼ば  
れる約束があります。各大学は少な  
くとも入試の二年前までには、該当  
年度の入試形態を発表するという約  
束です。これは志望校合格を目指し  
て勉強する受験生を守るために設け  
られている制度です。ところが、現  
二年生の入試に関しては、二年前ど  
ころかここへ来て、今まで決まっ  
ていたことも本当に実施されるのかど  
うか甚だ疑わしい状態になってしま  
いました。もちろん怒りを抱くのは  
当然です。入試にきちんと向き合っ  
てきた生徒ほど、その怒りや落胆は  
大きいでしょう。このことが自分の  
生活や人生にどのような影響を及ぼ  
したかを、しっかりと考え自分なり  
の意見を持つてほしいと思います。

ただ、変わらないこともたくさん  
あるのだということも受け止めて、  
冷静な判断と行動をしてください。  
このような状況ではありますが、大

学入試までに残された月日は例年と  
変わりません。英語四技能に関する  
検定が各大学の入試に積極的に使わ  
れる流れも変わっていません。毎日  
の授業を大切にし、こつこつと基礎  
学力をつけていくとともに、一年生  
から積極的に検定を取得したり、大  
学研究をしたりすることが志望校合  
格への一番確実な道のりだという従  
来の考え方は変わらないのです。

今回の決定を受けて、今後、各大  
学や検定実施団体から様々な情報が  
発表されることと思います。その多  
くはホームページ上に掲載されます  
ので、お子様の志望校や受検を考え  
ている検定実施団体などのホーム  
ページはなるべく頻繁に確認するこ  
とをお勧めいたします。本校でも、  
より多く、より迅速な情報提供に努  
めて参りますので、今後ともよろし  
くお願いいたします。

(進路課長 大村生実)

**生徒課**

**一学期を振り返って**

一学期が終わり、冬季休業に入り  
ます。二学期には「体育大会」、「口  
ゴスの集い」、「疾風祭」など袋井高  
校の伝統的行事がありました。生徒  
の自主的な運営のもと、それぞれの  
立場で積極的に参加し、一生懸命取  
り組んでいました。部活動において



も活動の中心が二年生に替わる中で各種大会や発表会で好成绩を収めています。

さて、冬季休業を迎えるにあたり下記の点について御注意いただきたいと思います。一つは自転車による交通事故です。登下校において右側通行や、一時停止をしなかったり並進などをしていて、地域から苦情を頂いたり違反切符をもらったりするケースも多くありました。命を守る観点からも交通ルールやマナーを守り、時間に余裕を持った安全な登下校となるよう御家庭でも御指導をお願いします。そして年末の交通安全県民運動実施期間が二月一五日(日)から二月三一日(火)までの一七日間となっています。運動の重点は、①高齢者と子どもの交通事故防止、②夕暮れ時から夜間の交通事故防止、③飲酒運転の根絶です。生徒を含めて保護者の方にも、ぜひ御注意をお願いします。また、令和元年一〇月から自転車条例施行となり、賠償保険への加入が義務化されました。本校では、PTAでの保険条例に沿った損害賠償において対応しております。

次に不審者の問題です。警察などからの情報は、本校のホームページに掲載しています。特に必要な場合は、生徒たちに連絡し、注意を促し

ています。声掛けや露出等の事案は小中学生に多いものの、高校生の被害も心配されますので、冬季休業中においても校外生活には、御注意をお願いいたします。特に夕暮れや夜間の外出には注意を払ってください。もし、不審者を見かけたり、被害にあったりした場合は、警察と学校への連絡をお願いいたします。

冬季休業は短いですが健康に留意し、しっかりとした計画を立てて生活させてください。終業式には「冬季休業中の諸注意」を配布します。三年生は補習も組み込まれていますし、部活動の計画表も配布されますので、御覧ください。

(生徒課長 澤木 徹)



## 図書課

### 今こそつきたい「探究力」

平成二十九年度からお茶の水女子大学の文系学部のア〇入試において「図書館入試」と言つ、極めてユニークな入試が行われています。

まず、講義を聴きレポート等の課題を提出し、一次選考とします。二次選考では「大学付属図書館」の文献や資料を駆使しつつレポートを作成し、その後グループ討論や面接を経て合格者が決定されます。

この入試で求められる能力は「論理力」や「課題探究力」「独創性」などで、どれも一朝一夕に身につく種類のものではありません。

先日、この入試に携わった大学図書館司書の方のお話を伺う機会がありました。大学側がこうした入試を取り入れたのは次のような思いがあるのだと教えていただきました。

- ①単なる知識量の多寡ではなく、その知識をいかに「応用」できるかを見ていきたい。
- ②基礎学力の上に、物事に好奇心を持って臨み、広く深く探究できる人を見出したい。
- ③大学入学後、ひいてはその先の大学院や社会に出てからもそうした才能を磨き伸ばせるような、パートナーでは測れない潜在的な可能性を持つ人を迎え入れたい。

この求める学生像、実は、ほぼ全ての大学で、今求められている姿であると言っても過言ではありません。

そう考えると、こうした形の入試がこれから増えていくであろうことは想像に難くありません。更には、大学の求める学生像は高校生としても望ましい学生像とも言えます。

高校生にそうした力をつけてもらうために学校図書館はどうしたらいいのか。日々の活動の中で、「学びの場」・「情報支援の場」・「読書の場」としての環境を整えるとともに、学びを通して「情報リテラシー」を身につけられる場となるように生徒と共に職員自身も学んでいきたいと考えています。

(図書課長 戸塚 恵)

## 保健厚生課

### 「健康と自己管理」

#### 一 保健室より

保健室では、来室した生徒一人ひとりに問診をして、体調不調の原因を考えさせることで不調と向き合うことを促しています。自身の体調管理には、食事や睡眠の量・質などの生活面や心の内面に関わる健康課題について自分自身で振り返ることが大切で、これにより予防行動をとることができるようになります。一方、自分の行動がイメージできない場合

は、生徒と一緒に必要な課題と向き合い、より良い状態になるための解決策を探ることが必要になります。御家庭でもお子さんが何らかの健康課題にぶつかった時は、保護者の方も共に考え、自己決定できるまで粘り強く話を聞いてみてください。人は考えを言葉にして発すること、自分の思考を整理するそうです。すぐに大人の望む解決策を示さなくても構いません、じっくりお子さんに向き合う時間を大切にしてくださいればと考えます。

「今年度の保健室の来室状況」

昨年と比べ来室者全体が四〇名程度（約七％）減少しています。けがによる来室が三割程度減少しましたが、発熱や悪寒など病気による来室が若干増加したとともに、健康相談が一〜二割増えています。体調不良となる要因は様々ですが、来室時の問診票から日々の生活習慣の乱れに起因するものが多いことがわかります。御家庭では、学校での生活のことや家庭での生活のことなどを、お子さんと話をする機会を持つていただければと思います。

※一〇月に実施した薬学・食育講座に合わせて保健委員会がとったアンケート結果の一部が集計されました。御家庭での子供さんとの話題にしていただけばと思います。（集計全体数約三〇〇名）

- ① やけ食いをするところがあるか。  
一年一七％ 二年二一％ 三年三三％
- ② 栄養ドリンクを飲むか。  
一年三五％ 二年四〇％ 三年二六％
- ③ 風邪薬や鎮痛剤を日常的に飲んでいるか。  
一年八％ 二年六％ 三年一一％
- ④ 知らない人とSNSで会話することがあるか。  
一年一六％ 二年二二％ 三年二九％

令和元年度 保健室来室状況（4月～10月）

月別件数	けが	病気	健康相談	合計
4月	6	45	3	54
5月	6	62	9	77
6月	9	123	11	143
7月	2	53	5	60
8月	0	13	0	13
9月	11	101	19	131
10月	1	55	12	68
合計	35	452	59	546

二 教育相談室より

本年度は、月に二回程度隔週の金曜日にスクールカウンセラーによる学校でのカウンセリングの日を設けています。事前にカウンセリングを申し込めば、生徒だけでなく関係す

る保護者の方も御利用していただけますので、気軽に御利用いただければと思います。ストレスの多いこの時代、心の管理・ケアも大切です。お問い合わせは、相談室担当または養護教諭までお願いします。  
（保健厚生課長 横地 亨）

総務課

保護者の皆様へ

PTA会員の皆様には、五月のPTA総会、六月の地区会そして九月の学年PTA等に多数御出席いただき、誠にありがとうございました。また、PTA役員・評議員の皆様には役員会・理事会・評議員会等への出席をはじめ、委員会活動への積極的な取り組みなどに対し深く感謝申し上げます。

本校PTA活動の中心は、PTA評議員による委員会活動です。生徒・保健委員会、広報・研修委員会および進路委員会の三つの委員会によって活発な活動を展開していただいています。それぞれの委員会は一六名のPTA評議員で構成されています。

委員会活動の現在までの活動実績を紹介いたします。まず、生徒・保健委員会では、九月三日、一〇月一八日および十一月三日の生徒登校時に、各当番委員数名ずつが、交通安

全委員生徒、職員とともに「自転車マナー向上キャンペーン街頭指導」を行いました。一〇月二日、三日の袋井市祭典の補導は、台風一九号の影響で中止となりましたが、例年は参加していただいています。また、十一月三日には多くの委員が学校保健委員会に出席していただきました。

広報・研修委員会では、緑風祭のPTAバザーを担当し、値札付けなどの事前準備から当日の販売まで大盛況のうちに終えることができました。行列のできるほどの人気でした。本年度バザー収益金、五六、六八六円は生徒会に寄付していただきました。その様子は、一学期末に別紙にてお知らせしたとおりです。来年度も実施する予定ですので、一層の御協力をお願い申し上げます。また、緑風祭、球技大会や体育大会、あるいは公開授業等の学校行事の際には、各当番委員が記録写真を撮影しています。一月のマラソン大会の様子も撮影する予定です。

進路委員会では、各当番委員が一二月二日に、二年生の進研模試、三年生全統マーク模試の監督をお務めいただきました。特に、二年生、三年生の模試は終日お願いしました。

以上の他、PTA評議員の皆様には、委員会ごと、学年ごとで各種学

校行事の駐車場係としても御協力いただきました。緑風祭では、生徒・保健委員会、進路委員会の評議員が、一時間交代で、一般公開日の一日を終日担当しました。六月の地区会では、三学年の評議員、九月の一学年PTAでは、二学年の評議員、二学年PTAでは、一学年の評議員が、それぞれ駐車場係を担当していただきました。来年度もお願いする予定ですので、その時には一般会員の皆様からもあたたかい言葉かけをいただけるとうれしく存じます。

本校教育活動、PTA活動の推進のために今後とも力をお貸しいただきますよう、お願い申し上げます。最後に、本校では、緊急連絡用に「きずなネット」によるメール連絡を利用しています。未登録の場合は是非登録をお勧めします。登録方法は、本校HPに掲載していますので御覧ください。

(総務課長 牧田 真)

## 研修課

### 本校の研修活動

お子様方の成長、育成を念頭に、本年度も研修課では教員を対象に様々な研修を行って参りました。教員の資質向上はお子様方の確かな学力の定着に大きく寄与するとの認識のもと、私たち教員も研修には真摯

に取り組んで参りました。

「アクティヴ・ラーニング」導入の必然性が言われて久しいですが、ともすれば受動的であったそれまでの授業形態が、本校におきまして、生徒がいかに主体的、能動的に学べるかを追求する中で様変わりして参りました。社会では今や必須スキルであるプレゼンテーション能力や国際的舞台で求められる能動的発話能力を具える時期として、高校生の時期は重要な時期であると考えます。私も教員もそれを意識し研修に取り組んでおります。

具体的には、教員相互の授業参観とそれへの評価、他校の授業参観や意見交換、教科毎の県全体での研究会、県教育委員会主導によるアクティヴ・ラーニング研究授業の実施、さらには予備校での授業参観による大学受験を見据えた効果的な指導方法の研究など多岐に渡ります。保護者の皆様方にも本校の公開授業などを通して本校の授業の実態を御覧いただければ幸いです。

また本年度は、本校のオーストラリア姉妹校であるトーマス・ハツサール・アングリカン・カレッジから留学生を迎え入れました。海外へ赴くことのみならず、海外の学生を迎え入れ、短期間ではありますが時間を共に過ごすことも大切な国際交流の場であると考えています。本校

の生徒も有意義な時間を過ごせたと思っています。合わせてホームステイを快くお引き受けくださいました御家庭には、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

来年度は本校一・二年生がオーストラリアへ留学いたします。新二年生に対しましては今年度三月を目途に詳細を御連絡いたします。総数二十五名と参加者に限りはありますが、この機会を是非国際交流の絶好の機会と捉え前向きに御検討ください。

(研修課長 久野正幸)

## 広報課

### 本年度の広報活動について

広報課は、袋井高校の様子を発信するために、学校ホームページや校内を作成しています。中学生三年生に対しては、「中学生の高等学校一日体験入学」と「公開授業」の企画・運営を行い、その案内のためにリーフレットを作成し、近隣の中学生に配布しました。また、昨年度から一学期末と年度末の二回、「学校新聞」の発行を担当することになりました。

夏休みに行われた「中学生の高等学校一日体験入学」では、中学生が八〇人以上、保護者は二八〇人以上が参加しました。保護者の参加が年々増加しており、関心の高さを感

じます。一日体験入学では、生徒会の生徒が司会進行を行いました。生徒会は、学校生活を紹介する動画を作成し、参加者に学校の様子をわかりやすく紹介してくれました。中学生の案内・誘導には、一・二年生のクラス代表(評議員)が当たりました。事後のアンケートでは、係の生徒の仕事ぶりや、挨拶をはじめとする応対のしかたに、高い評価をいただきました。担当の生徒は、自分の役割を把握し責任を持ってやってくれたと感謝しています。また、体験授業は特に保護者の方に好評で、本校の先生方が授業にさまざまな工夫を凝らしていることがうかがえました。

十一月には「公開授業」を実施しました。例年土曜日を授業日とし、五時間目の一、二年生の授業と放課後の部活動を公開しました。中学生とその保護者に加え、本校の保護者にも公開しておりますが、今年は約三八〇人の参加がありました。あわせて「三文化祭「疾風祭」を開催し、文化部の作品展示を行いました。今回も袋井高校の普段の様子を、保護者だけでなく中学生にも見てもらえたと思っています。

広報課では、今後も生徒の活動を中心に、袋井高校の様子を発信していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(広報課長 石川泰二)